

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立小泉中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒988-0333
宮城県気仙沼市本吉町平貝123番地

E-mail koizumi-chu@kesennuma.ed.jp

Website http://www.kesennuma.ed.jp/koizumi-cyuu/html/

児童生徒数 男子 21名 女子 21名 合計 42名
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域の活性化、福祉）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 本校でのESDの目標

環境学習，エネルギー学習，防災学習，国際理解学習，多文化共生学習，福祉学習等に対して，自ら課題を見つけ，課題解決に向けた活動を計画・実施することにより，持続可能な社会を創造していくための新たな価値観や能力を身に付けさせる。

2 ESDの基本方針

- (1) これまでの自分たちの学習や，前年度までの先輩の学習で得た知識や技能を生かすなど，発達段階を考慮した学習内容の系統性をカリキュラムに組み込む。
- (2) 地域の人とのつながりを大切にした活動を行い，社会における自分の役割や将来の社会について考える機会とする。
- (3) 知識の獲得と体験活動の関連を重視し，計画的に学習カリキュラムに組み込むことで，実生活に応用できる能力を獲得させる。

3 指導の概要

- (1) ESDの学習は，全教科，領域で取り組む。
- (2) 総合的な学習の時間における評価を，ESDの評価に振り替える。
- (3) 指導に当たっては，その活動において育てたい「ESDで重視する能力・態度」を明らかにして，意識的に指導に当たる。

4 ESDと「総合的な学習の時間」の関連

- (1) ESDで重視する能力・態度と，「総合的な学習の時間」の身に付けさせたい資質・能力との関連は次のとおり。

ESD「重視する能力態度」	総合「身に付けさせたい資質能力」
・ 未来像を予測して計画を立てる力	→ (1) 企画立案の能力
・ 多面的，総合的に考える力	
・ コミュニケーションを行う力	→ (2) 話合いの能力
・ 他者と協力する態度	
・ つながりを重視する態度	→ (3) 実行・運営の能力
・ 進んで参加する態度	
・ 批判的に考える力	→ (4) 評価の能力

- (2) 総合的な学習の時間では，次のような点を重視し，ESDの視点を生かすようにする。

①教材のつながり（発達段階を考慮した，系統的な学習カリキュラム）

資質能力	1年生	2年生	3年生
話合いの能力 実行・運営の能力	[福祉学習] 福祉施設訪問 異年齢の人とコミュニケーションをとる	[防災学習] 小学校と協働 他者と協力しながら，活動の指揮をとる	[地域協働学習] 地域振興 地域とのつながり・将来の地域の姿を予測する
企画立案の能力 評価の能力	[進路講話の企画運営] 企画書の書き方を身に付ける	[防災に関する活動] 人の動きを予測して計画する	[避難所設営訓練] 多くの人の動きを，総合的に考え計画する 昨年の訓練と比較し自分たちの計画を評価する

②人のつながり（地域や他団体とのつながり）

1年生は福祉施設訪問で、2年生は小学校との連携防災学習で、3年生は浜太鼓等の地域協働学習で、それぞれつながりを生かす。

③能力・態度のつながり

自分たちの企画の実施を中心とすることで、実践力のある能力・態度を身に付けさせる。

5 総合的な学習の時間におけるESDプログラム

(1) 取組の概要

3年間を通した学習課題として「地域づくり学習」を行うために、まず各学年にテーマを与え、のテーマについて中学生として行うべき活動を考え、その活動を通して自分の学習課題を設定して学習する。

(2) 今年度の取組の改善点

昨年度までのプログラムでは、小泉中学校として毎年行うような特徴のある活動があまりない点や、各学年の学習内容に系統性がうすい点が課題としてあげられていた。そこで、次のような点を工夫した。

① 自分たちで新規に考える活動の他に、各学年で例年行うような活動を設定し、その成果や課題を次年度に引き継ぐようにした。

② 学年が上がるにつれ、難易度が高まるような活動の企画・実施を設定し、「企画立案の能力」や「実行・運営の能力」が3年間を通して高まるようにした。

③ 1学年で福祉施設、2学年で小学校と連携した活動を行い、3年生で地域全般と関わる協働的な活動を行うというように、地域学習として広がりをもたせた。

(3) 各学年の取組

① 1年生

テーマ

「小泉地域の福祉を活性化するために、自分たちにできることは何か？」

主な活動

春園苑（地域の福祉施設）の訪問・交流活動、福祉に関する探究学習



教室での話し合い
（探究学習）



ハンドマッサージ
（春園苑交流学習）



おやつづくり体験
（春園苑交流学習）

② 2年生

テーマ

「小泉地域が安全に安心して過ごせるようにするために、自分たちにできることは何か？」

主な活動

全校防災活動（防災クイズ，避難所用段ボールハウスづくり，サバイバル飯づくり），小学校との連携防災活動（防災クイズ，サバイバル飯づくり），防災に関する探究学習



段ボールハウスづくり
（全校防災活動）



防災クイズ
（小学校との連携防災活動）



サバイバル飯づくり
（小学校との連携防災活動）

③ 3年生

テーマ

「小泉地域の人々がより活発に活動できるようにするために，自分たちができる地域活動は何か？」

主な活動

地区運動会での小泉浜太鼓披露，地区ソフトボール大会，グラウンドゴルフ大会，炊き出し訓練を企画・実施，避難所設営訓練



避難者想定訓練
（避難所設営訓練）



地域の人を招待しプレー
（グラウンドゴルフ大会）



地域の人との合同チーム
（地区ソフトボール大会）

6 今年度の取組の成果と課題

(1) 成果

- ① 「福祉」「防災」「地域協働」に対して理解を深め，持続可能な社会を創造していくための基本的な価値観や能力を身に付けることができた。
- ② 課題を解決する学習を中心として行うプログラムとしたことで，主体的に探究的な学習を行い，その能力を高めることができた。
- ③ 福祉施設，小学校，地域の団体や住民との交流を行うことで，地域と積極的に関わり，将来について考え，創造していこうとする意欲を育成することができた。

(2) 課題

- ① 今年度の活動の成果と課題を次年度に生かし，積み上げていくような学習となるように，生徒の引き継ぎや，教師の記録の仕方を改善する必要がある。
- ② 中学校が企画した活動であるだけに，地域の機関となかなか互いに協働するという意識をもって活動することが難しかった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）